2026年9月版

急性期医療臨床試験グループ（CTG）構築に向けた国際会議

～ トライアルグループ・臨床研究ネットワーク・国際連携 ～

開催日時：2026年12月13日(日) 10:00～17:00
（会議終了後ネットワーキングのイベントを予定）
開催会場：慶應義塾大学 CRIK信濃町　https://crik.keio.ac.jp/
参加費：無料
※一部オンラインも検討（対象言語は日本語、英語）

申込みは
こちら ➡

https://peatix.com/event/5164650

開催趣旨（なぜ今、日本にCTGが必要か）

急性期医療（感染症・集中治療・救急医療等）の現場では、COVID-19パンデミック時も経験したように迅速かつ信頼性の高いエビデンスを創出する体制が強く求められています。海外では、臨床試験グループ（Clinical Trial Group: CTG）やプラットフォーム試験を中核とする研究ネットワークが確立され、診療と研究を直結させて患者アウトカムを劇的に改善してきました。

日本においても、関連分野を横断して急性期医療を扱うCTG構築は有意義と考えます。平時の臨床研究・試験の推進はもちろん、将来の健康危機（有事）への備え、および日本の国際共同研究におけるリーダーシップ強化を目指し、海外のトップ研究者と日本の臨床研究者が議論を深め、次につなげる場としての国際会議を開催いたします。

対象領域・連携ネットワーク

感染症　集中治療　救急医療　感染管理　小児領域　臨床疫学　医療経済

患者・市民参画（PPIE）

主催：日本急性期医療CTG国際会議準備委員会（仮称） 構成メンバー

齋藤 浩輝（聖マリアンナ医科大学・慶應義塾大学）／藤谷 茂樹（聖マリアンナ医科大学）／南宮 湖（慶應義塾大学）
具 芳明（東京科学大学）／岡本 耕（東京科学大学）／栗山 明（McMaster大学）／武藤 義和（慶應義塾大学）

【後援】 日本感染症学会、日本環境感染学会、日本集中治療医学会（その他、各関連学会、団体と調整中）

参加者の方と共に目指す成果とインパクト

短期成果

共通ビジョンの確立、CTGとしての正式発足・ガバナンス構築、研究優先領域の特定、初期共同プロジェクトの立ち上げ

中期成果

観察研究・レジストリ・RCT・プラットフォーム試験等を継続実施できる安定した運営体制の確立と関連組織との連携強化

長期的インパクト

日本が急性期医療の臨床研究・試験領域において国際的リーダーシップの一角を担い、質の高いエビデンスに基づく臨床アウトカムの向上を実現

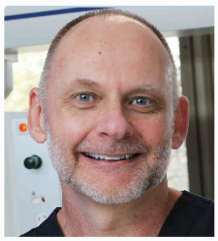
タイムテーブル　2026年12月13日（案）

時間	セッション名・内容	狙い・アウトプット
10:00–10:10	**開会の挨拶・趣旨説明**	なぜ日本に急性期医療領域のCTGが必要か、本会議の趣旨とゴールの共有
10:10–11:00	**Session 1: 海外CTGの取り組み・教訓** 海外CTGの設立経緯、ガバナンス、成果	海外先行事例の成功要因と教訓を学び、日本への適用可能性を抽出
11:00–12:00	**Session 2: プラットフォーム試験** 国際プラットフォーム試験とCTGの関連性	プラットフォーム試験の参画意義と国内推進の利点を整理
12:00–13:00	**ランチ・ネットワーキング**	
13:00–14:15	**Session 3: 国内の取り組み・現状** 国内研究者による関連研究紹介、既存体制の強み・障壁、海外講師からのフィードバック	日本の現状分析と課題明確化、海外ネットワークとの接続点模索
14:15–15:30	**Session 4: 日本急性期医療CTGの共創** ブレイクアウトセッション（ミッション・ビジョン、ガバナンス、事務局運営、研究プライオリティ、成人・小児連携、PPIE等）	分野横断的なブレイクアウトにより日本版 CTGの骨子を議論、共有
15:45–16:45	**Session 5: ロードマップ策定** CTG設置に向けたアクション・プラン策定、ワーキンググループ設置、CTGロードマップ作成、マイルストーン設定	2027年に向けた日本急性期医療CTGロードマップ策定
16:45–17:00	**閉会の挨拶**	サマリーと今後のアクションの確認
17:00–19:00	**レセプション・イブニングセミナー**	ネットワーキング・情報交換

登壇者

海外の臨床試験およびClinical Trial Group（CTG）の発展を牽引してきた第一線の研究者を招聘し、日本におけるCTG構築に向けた経験と知見を共有いただきます。

現地参加



Steve Webb 教授

モナシュ大学・オーストラリア

集中治療医・臨床試験専門家。ANZICS Clinical Trials Group元代表、Australian Clinical Trials Alliance元代表。REMAP–CAPやSNAPなど革新的なプラットフォーム試験を世界的に主導し、Bayesian adaptive platform trialsの実装と国際共同研究の推進を牽引している。

現地参加



Ian Roberts 教授

ロンドン大学衛生熱帯医学大学院・英国

臨床疫学教授。世界各国の研究者と連携し、救急・外傷・産科領域を対象とした国際多施設共同臨床試験を推進。CRASH試験およびWOMAN試験の主任研究者として知られ、グローバルな研究ネットワーク構築とエビデンス創出に貢献している。

オンライン参加

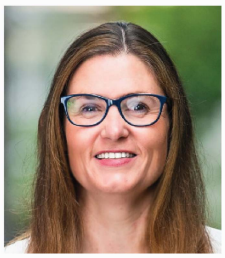


John Marshall 教授

トロント大学・カナダ

外科・集中治療教授。International Forum for Acute Care Trialists（InFACT）創設者・代表、Canadian Critical Care Trials Group（CCCTG）元代表。REMAP–CAP試験のカナダ研究代表者を含め世界的な臨床研究、プラットフォーム試験を牽引し、集中治療分野の国際共同研究および臨床試験グループ構築の第一人者として活躍している。

オンライン参加



Lisa Higgins 准教授

モナシュ大学・オーストラリア

臨床試験方法論および医療経済学の専門家。ANZIC Research Centreの医療経済プログラム責任者。REMAP–CAPには開始当初から参画し、医療経済・長期予後評価を国際的に主導。急性期医療におけるプラットフォーム試験とアウトカム評価の第一人者である。

登壇者

海外の臨床試験およびClinical Trial Group（CTG）の発展を牽引してきた第一線の研究者を招聘し、日本におけるCTG構築に向けた経験と知見を共有いただきます。

オンライン参加



David Paterson 教授

シンガポール国立大学・
シンガポール

感染症・薬剤耐性（AMR）研究の第一人者。シンガポール国立大学でADVANCE-IDを統括し、アジア20か国・200以上の病院からなる臨床試験ネットワークを牽引。抗菌薬、診断、感染予防戦略を対象とした多国間臨床試験を推進し、薬剤耐性菌による感染症疫学と最適な予防・治療に関する研究を展開している。

オンライン参加

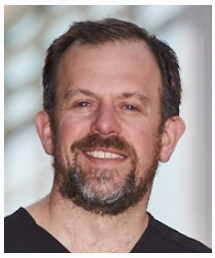


Lennie Derde 教授

UMC ユトレヒト / Ecraid・オランダ

集中治療医で、感染症・疫学を専門とする臨床研究者。敗血症・重症感染症を中心に、重症患者を対象とした臨床試験の方法論、デザイン、実施・解析に取り組む。REMAP-CAPの欧州代表研究者および前グローバルチェアを務め、2026年より欧州の感染症研究ネットワークEcraidのCEOとして国際共同研究を牽引している。

オンライン参加



Bram Rochwerg 教授

McMaster大学・カナダ

集中治療医・臨床研究者。Canadian Critical Care Trials Group（CCCTG）代表を務め、集中治療、蘇生、敗血症、ランダム化比較試験、エビデンス統合を専門とする。多施設ランダム化比較試験を主導するとともに、多数の国際共同研究に参画。GRADEを用いた診療ガイドライン作成の方法論にも精通し、急性期医療のエビデンス創出を幅広く牽引している。

オンライン参加



Steven Tong 教授

メルボルン大学・オーストラリア

感染症医・臨床研究者。メルボルン大学Doherty InstituteおよびMelbourne Centre for Clinical Trialsで臨床研究を主導。17か国・160以上の病院が参加するプラットフォーム試験Staphylococcus aureus Network Adaptive Platform（SNAP）を統括。さらに急性呼吸器感染症を対象とした大規模国際臨床試験を推進している。

【本会議に関するお問合せ先】 日本急性期医療CTG国際会議準備委員会（仮称）

齋藤 浩輝（聖マリアンナ医科大学・慶應義塾大学） E-mail:hiroki.saito@marianna-u.ac.jp